

窓

Keiso

Vol.35

2026.10.1

きらぼし
綺羅星の中の青きが流れけり

—— 水原秋櫻子

東大阪大学・東大阪大学短期大学部附属図書館

研究室訪問

介護福祉学科 准教授 山田 克宏

プロフィール

東北福祉大学大学院博士課程在籍。

社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、現場実践を経て現職。記録法である「F-SOAIP」の普及や地域福祉・精神保健福祉分野を専門とし、2026年5月に「ロジカルケア研究所」を設立。社会的排除されやすい方へのケアリングという考え方に基づく実践のあり方を理論面からも探求している。



Q：記憶の中、最初に自分で買った本は何でしょうか。

A：『学研まんが日本の歴史』幼少期に歴史の大きな流れや人間模様に触れ、読書の楽しさを知るきっかけになった大切なシリーズです。

Q：最近買った本は？

A：広井良則著『ケア学：越境するケアへ』と、アラン・ケレハー著『公衆衛生と終末期ケアの融合』（竹之内裕文・堀田聡子訳）です。広井の著書は2000年刊行ですが、この時点で将来的な「囲い込み問題」を予見しており、ケアマネジャーのあり方を考えるうえで、非常に示唆に富んでいます。また、アラン・ケレハーの著書は、孤立や喪失に対して支えあう「コンパッションコミュニティ」という概念を示しており、一人一人の社会的責任として大変興味深いです。

Q：好きなジャンルは？

A：小説をはじめ、社会学の専門書、子どもや「ひきこもり」支援に関する地域福祉関連の本を広く購入し、読み進めております。

Q：本を買う時、ネット書店と本屋と、どちらをより多くご利用でしょうか。

A：目的の本が決まっている場合は、ネット書店を、そうでない時は街の本屋を利用します。本屋では、棚に並ぶトレンド（時流）を肌で感じながら予期せぬ刺激や学び、感動と出会い（セレンディビティ）を楽しんで選択・購入します。

Q：いま、お手元に読んでいる本は？

A：大石剛史著『ケアリングコミュニティの理論』前田拓哉・山北輝裕・川端浩平著『構造的差別のリアリティ』です。どちらも私の今の研究テーマに深くかかわる重要な文献です。

Q：時々読み直す本はあるでしょうか。

A：V・E・フランクフル著（山田邦男訳）『制約されざる人間』です。自身の内面を見つめ直し原点に立ち返るために、定期的に紐解く一冊です。

Q：もし蔵書の中一冊だけ選ぶなら、どの本を選びますか。その理由は？

A：ドナルド・ショーン著（佐藤学・秋田喜代美訳）『専門家の知恵』です。単なる技術としての適応ではなく、実践者が現場で生み出す『反省的实践（リフレクション）』の重要性が説かれており、私の教員としての姿勢や研究における着眼点となっております。

Q：読書の醍醐味は？

A：自分の知らなかった世界や他者の思考に触れ、内面的に「楽しい変化」を起こせることです。読書は、思考の体幹を鍛える「筋トレ」のようなものであり、凝り固まった思考をほぐし、視野を大きく広げてくれるところに醍醐味を感じています。

Q：座右の銘をお教えください。

A：座右の銘は、「together with him」「一隅を照らす」です。ソーシャルワーカーとして倫理綱領を胸に、自らの生き方を通じて、対象者（彼ら）とともに生きることを目指しております。また、「一隅を照らす」という言葉の通り、どのような場でも、ひたむきに、誠実に事を行うことを大切にしています。

Q：学生にぜひ読んでもらいたい本は？

A：マイケル・サンデル著（鬼澤忍訳）『公共哲学』です。格差原理では、最も弱い立場の人をサポートすることが説かれています。他者の努力の格差は、許容されるのですが、それはけっして、結果平等にはならないのです。個人の自由を重視しつつ、社会全体でいかに弱者を支えるかという視点は、わたしたち『ケアのあり方』とも深く関連しています。そのようなつながりを意識しながら、読んでみましょう。

Q：読書について、学生へのアドバイスをお願いします。

A：読書は、「ボーリング」であり「筋トレ」です。楽しさと変化を生み出し、気分転換と視野を広げる媒介者となります。気になる本を直感で手に取りましょう。それからの人生で続け行けば、生きる道程が楽しくなり、豊かなものとなり、成長に繋がるはずですよ。



「ラダーゲッター」という子どもから高齢者まで楽しめるスポーツです。



つくる楽しさ 知るよろこび

実践食物学科准教授 木下 哲郎

ふわりと広がる芳醇な香りと、口にした瞬間にすっと溶けていくなめらかな口どけ。それらがもたらす至福のひとつは、いつの時代も私たちを魅了してやみません。毎日お菓子や料理と向き合い、現場で試行錯誤を重ねてきた私にとって、「美味しい」という感動の裏側にある秘密を知ることが尽きない楽しみの一つです。職人の感覚や経験に頼りがちな「味や食感」の正体は一体何なのか。上野聡氏の著書『チョコレートはなぜおいしいのか』（集英社 2016.12.21）は、私たちが何気なく口にしているその魅力を、科学の目でやさしく、かつ深くときほぐしてくれます。

本書の中で何よりも心惹かれたのは、チョコレート特有のなめらかな口どけが、ココアバターという油の非常に小さな結晶の形や溶ける温度によって見事にコントロールされているという解説です。例えば、トリュフチョコの場合、手で持ってもベタつかずにしっかりしているのに、口に入れた途端に体温ですっと溶けて、芳醇な香りがふわりと広がります。この魔法のような口どけは偶然ではなく、現場の仕事において「テンパリング」と呼んでいる、温度を丁寧に整える作業の科学的な姿そのものです。決められた手順を実直に守り抜くことの大切さは、日々のものづくりや暮らしの中でずっと大切にしてきた自分姿勢とも重なり、思わずうなずいてしまいました。

さらに本書は、科学的なお話だけでなく、カカオという苦い飲み物が歴史の中でどのように愛され砂糖と出会い今の形へと進化してきたのかというロマンあふれるストーリーも教えてくれます。長い時間をかけて食の文化を紡いできた人々の営みに思いを馳せると、美しいお菓子作りに夢中になっていた頃や厨房での日々が蘇ってきます。先輩方から受け継いだ技術や周りの助けがあって

こそ、今日までこうして歩いてこれたのだと改めて実感します。先人たちが長い時間をかけて知恵を繋いできたように、直感や感性を大切にする職人の世界ですが、物質の本質を見据える科学的な視点を持つことで、ものづくりはもっと自由で深いものになるのだと感じます。

教室で学生たちと向き合い、日々ものづくりを伝えていると、「なぜこの温度にするのですか」「どうしてこの作業が必要なのですか」と素朴な疑問を投げかけられることがあります。そんなとき、手順をなぞるだけではなく、その背後にある科学的な理由や歴史の物語までをしっかりと伝えてあげたい。表面的な模倣ではない、素材や技術の「本質」を見抜く目を育てることの大切さを、本書を通じて改めて教えられました。

ものづくりの背景にある歴史や理由を知することは、技術を学ぶうえで大きな糧となります。目の前の作業をただこなすのではなく、その本質を深く見つめようとする探究心を大切にしてください。そうして得た知識は、これから皆さんの技術を確かなものにし、表現の世界をより豊かに広げてくれるはずです。

一粒が口の中でとろけるとき、そこには自然の恵みと、それを紐解いてきた人々のたゆみない探究心が詰まっています。日々の小さなルールを守り、実直に積み重ねていくことの尊さをそっと確かめながら、本書は長くお菓子と向き合ってきた私に、「つくる楽しさ」と「知る喜び」の原点を思い出させてくれた心強い存在となりました。



学生選書

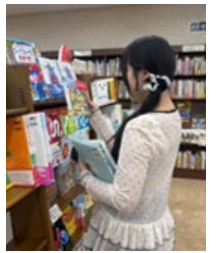
選書ツアー：6月24日(水)

WEB選書：6月21日(木)

～7月5日(日)

書店：ジュンク堂大阪本店

参加学生：合計 16名



【参加者のコメント】

気になっていた本が選べた。

日本の文化や習慣を英語でどのように紹介しているかに、興味がありました。

日常とリンクしやすいかな？と思い選びました。

家で作れる料理の本がたくさんあって、おもしろかったです。

日本の文化が好きで、もっと知りたいです。

私は本を自由に見て、読みたい本を選ぶのが本当に楽しいです。

2回もさせていただいて、本により触れることができた。

いろんな本がたくさんあって、もっといろんな絵本をみたいと思った。

楽しかったです。

選ばれた図書(92冊)は、図書館2階
閲覧室学生選書コーナーに並びます。

🌸 貸出もできます 🌸



教科書でも健康系 MOOK でもなく、
日英併記されているので、留学生の方にも
おすすめです。

「大切なこと」に関わる「偉人エピソード」
と名言も書かれていて、人生に大切なことを
教えてくれます。

日本語の勉強生活に役立つと思ったから
選びました。

映画もあるので選びました。
本がたくさんあって、おもしろかったです。

考え方が変わるかなと思い、選びました。
とてもよい学びになりました。

2026 年度後期 図書館企画展示

林明子さんを偲んで

『はじめてのおつかい』
『こんとあき』
『おでかけのまえに』...

林明子さんの絵本に
描かれているのは
こどもの心と存在そのもの
そして 大切な日々



【図書館イベント予定】

・学生選書：

《書店ツアー》11月26日(木)

《WEB選書》11月24日(火)
～12月4日(金)

・読書作文コンクール：

《締切》12月23日(水)

・企画展示：随時、実施しています。



教員推薦図書

介護福祉学科講師 北島 ちよ子

『夜』 エリ・ヴィーゼル 村上光彦 訳

みすず書房 2010, 2, 2

『夜』を初めて読んだのは、20代半ばのころだったろうか。人間の苦悩というものを直視したいという思いの乱読から手に取った一冊だった。物語は200ページほどで、内容の苛烈さに比して、短すぎるという印象がある。15歳の少年が、ある日突然捕えられ、強制収容所に閉じ込められ、虐待を受け続ける。その理由はただユダヤ人だからということにすぎない。これは第二次世界大戦の末期、アウシュビッツ収容所で過ごした1少年のドキュメントであり、人間の本当の姿を見せてくれる貴重な記録である。終戦後、80年が過ぎたが、このような悲劇は終わっていないということを私たちは、毎日ニュースで見聞きしている。



(請求記号 953.7/W72)

ホロコースト、9・11などの禍々しい災いからどんな lesson を引き出すことができるのか、今回改訳で再読しながら、大きな宿題をつきつけられた気がする。生きることが苦しい時に手に取るのがよいのではと思う。

実践保育学科准教授 木下 雅博

『シークレット・オブ・シークレッツ上・下』ダン・ブラウン 越前敏弥 訳

角川書店 2025, 11, 6

この書籍は映画『ダ・ヴィンチ・コード』や『天使と悪魔』、『インフェルノ』などで知られている「ロバート・ラングドン」シリーズの一つである。このシリーズはハーバード大学の教授である主人公ロバート・ラングドンが、偶然、宗教学や哲学、科学などの禁忌に触れることになり、大事件に巻き込まれるというストーリー構成になっている。

今回は、チェコ共和国の首都プラハを舞台に、意識についての最先端の科学の領域に足を踏み入れ、思わぬ陰謀に巻き込まれてしまう。



(請求記号 933.7/B77)

毎回、どこまでがノンフィクションで、どこからがフィクションなのかわからない高度で広範囲な情報が提供されるため、初めて読む人には難しいかもしれない。しかし、この本(シリーズ)を面白がって読めるくらいの教養を身に付けられれば、世の中を多角的に観ることができ、人生をより楽しめるようになるのではないだろうか。

国際教養こども学科講師 横田 詩織

『初版グリム童話集1-4』グリム兄弟 吉原素子・吉原高志 訳

白水社 1997, 5, 15~11, 10

残虐な表現や性的な表現を「好ましかからざる」として禁止しようという動きは古今東西どこにでもあるもので、往時イギリスでは椅子の足すら性的であるとして隠さなければならなかった、などという笑い話もある。その活動の是非はともかく、グリム兄弟、特に弟のヴィルヘルムによって何度も手を加えられたメルヒェン集は、アニメやゲーム、漫画やライトノベルなどで今でも赤ずきんやシンデレラ、ヘンゼルとグレーテルなど様々なモチーフを提供し続けている。



(請求記号 909.8/G)

まさに、大衆に受け入れられるように手を加え続けたヴィルヘルム・グリムの功績である。

では、兄弟はなんの話の、どの部分を不道德であるとみなしたのだろうか。例えば、「白雪姫」で姫を追放する女王は実母から継母になり、「シンデレラ」の姉たちは足を切り落とさず、「千匹皮」で姫を見つけるのは実父ではなく隣国の王子になった。そもそも削除された話(「こどもたちが屠殺ごっこをした話」など)もある。垣間見えるのは、19世紀初頭ヨーロッパ地域における宗教観、倫理観、道徳観である。ぜひ、最終版である第7版と並べて比較しながら読んでみてほしい。21世紀日本を生きる人々にとって、この改変は妥当か、あるいは。

